

2022年4月8日(金) 第2868回例会 形式:対面 天候:晴れ 合唱:奉仕の理想

会長 室伏 学 幹事 望月 博文

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内 TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

室伏 学

昨日4月7日に、当クラブの神谷会員が、田島透ガバナーと木村隆也ガバナー補佐のお二人を連れて、弊社にお越しになりました。私単独では心許ないので、望月幹事にも同席してもらいました。テーマは新クラブ設立

でした。名称も未定とのことですが、所在地域は西湘地区全体(2市8町)で、オンライン参加も可能な例会形態ということでした。新クラブ設立自体は、素晴らしいことですし、何とか良い方向に進めて、応援したいと思いました。

以前にもお話ししましたが、人口1万人あたりのロータリアンの適正人数は6.81人と言われています。湯河原町、真鶴町、熱海市泉地区の人口の合計は32,300人、当クラブの現在の会員数26人は、1万人あたりに換算すると8.05人、適正人数を2割近く上回っています。言い換えれば、会員数を増やすにはもっともっと多くの人口が必要ということです。

新クラブは、湯河原町内での例会を検討中と伺いましたが、その前提であれば、共存が持続可能とは到底思えません。当クラブの情報集会で勧誘対象としていつもお名前の挙がる方にもお誘いがあったと聞いており、既に競合してしまっています。人口に対しての会員人数比率の数字には一定の根拠があります。歴史を繰り返すことになるでしょう。

ここで注目すべきは、南足柄市と足柄上郡5町です。合計の人口10万5千人に対し、足柄RCさんは18人で、1万人あたり1.71人と極めて少ない状況です。エリアがとても広いので、オンライン参加可能な例会なら好都合です。スポンサーは当クラブではなく、足柄RCさん、または、小田原4クラブのどこかになさって、足柄上郡に例会場を設定するのが理想的だと思います。それであれば、好意と友情を深め、みんなのためになります。仮に、湯河原町、真鶴町、熱海市泉地区に例会場を設ける新クラブなら大反対と申し上げました。湯河原町、真鶴町、熱海市泉地区以外のどこかで例会を開催なさる新クラブであれば、是非とも応援したいと申し上げて、ガバナー、ガバナー補佐、神谷会員にもご理解いただけたと認識しております。また、選択肢として、アーカス湘南RCさんへの合流も提案いたしました。神谷会員からは、この選択肢も含めて軌道修正をご検討いただけるとお約束いただきました。当クラブ会員の皆様には突然のお話で当惑なさっていると思いますが、以上ご報告申し上げます。

出席報告

| | | | |
|-------|-----|-----------|--------|
| 会員 | 26名 | 出席率 | 80.00% |
| 欠席 | 6名 | 前回の修正出席率 | 87.50% |
| (免除者) | 1名 | 前々回の修正出席率 | 84.00% |
| ゲスト | 1名 | 事前メイクアップ | 0名 |
| ビジター | 0名 | | |

ゲスト 神奈川県議会議員 高橋 延幸 様

幹事報告

国際ロータリー日本事務局より

1.4月のロータリーレート 1ドル122円

ガバナーより

1.「2022年規定審議会説明会」開催のお知らせ

日時:5月26日(木)15時~16時30分

場所:藤沢商工会館3階「多目的ホール1&2」

登録期限:4月23日(土)

連絡事項

1.次週の例会場は「駿河」になりますのでご承知おき下さい。

スマイルBox

神奈川県議会議員 高橋延幸様

卓話をさせていただきます。機会をいただき誠に有難うございます。

高杉尚男君

先週ネームプレートを持ち帰りました。

西山敦君

ロケーションジャパン10月号66ページに五所神社社殿と宮司が掲載されました。

ロケーションジャパン12号56ページに五所神社社殿と楠が掲載されました。

青木義美君

孫が、大学へ2人、高校へ1人、中学へ1人入学しました。

卓話

神奈川県議会議員 高橋 延幸 様



皆様こんにちは。今回は県議会での活動の中から、芦ノ湖と早川の洪水対策に関する質疑についてご報告いたします。

一度は訪れてみたい国、日本！日本を代表する「富士山の景観」、「芦ノ湖」、「赤鳥居」言わずと知れた、神奈川県が誇る世界的観光地、箱根です。本日は、

箱根、芦ノ湖に関する歴史を振り返りながら、質問をさせていただきます。

箱根町では、一昨年の令和元年東日本台風で、全国のアメダスの銀測値で、史上第一位となる、日雨量922.5ミリを記録する豪雨に見舞われました。また、昨年の7月や、今年の7月にも、梅雨前線による豪雨に見舞われるなど、近年、箱根周辺では、毎年のように記録的な豪雨が発生し、芦ノ湖やその下流の早川の洪水対策強化が望まれております。

現在、県は、洪水対策として、昭和27年に建設された、芦ノ湖と早川を繋ぐ湖尻水門を操作し、水位調節を行っていますが、その開門操作方法は「静岡県芦湖水利組合」と協議の上、と定められており、早川への放流は、台風により水害が生じる可能性がある場合のみに限られ、通常、湖尻水門は、閉ざされています。この水門操作には、静岡県と神奈川県の間での、芦ノ湖をめぐる様々な歴史的経緯が関係しています。

江戸時代に小田原藩が深良用水を整備し、現在の裾野市近郊において、芦ノ湖の水を利用して新田開発を行いました。明治の廃藩置県により小田原藩が、神奈川県と静岡県に分かれた後、現在も、芦ノ湖の水は静岡県側でのみ、利用され続けております。

古くから「器は神奈川、水は静岡」といわれております。過去より、水をめぐり紛争は、たびたび発生しており、明治29年には神奈川県側の村民が早川に水を流そうと、芦ノ湖の水をせき止めている施設を破壊する、実力による紛争が発生し、当時の大審院による裁判により解決が図られました。芦ノ湖の水利をめぐるっては、現在も研究が行われており、様々な意見や

主張を耳にします。

さて時は進み、平成2年。県は、昭和27年に建設され老朽化した、湖尻水門を改築するとともに、50年に一度の豪雨にも対応できるよう、水利組合等、関係機関と協議の上、平常時の芦ノ湖水位の上限を、深良用水にある深良水門の敷高(水門の湖底)から2.3mとし、この水位を超えた場合にのみ、湖尻水門を開けて早川に放流することなどを操作規則に定め、これに基づき県が操作を行うこととしました。しかし、平成17年と19年には台風により早川が氾濫したことから、県は関係者と調整を重ね、台風の降雨により水害の恐れがある場合には、操作時の水位が2.3m以下でも、湖尻水門を開けて放流し、事前に水位を下げられるように取り決めるなど、その後も継続して洪水対策の強化に努めてきたことは承知を致しております。ただ、残念なことに昨今は、台風のみならず線状降水帯などによる豪雨も頻発しており、今後は常時、芦ノ湖の水位をできるだけ下げておくことが望ましいと考えます。

東日本台風後、芦ノ湖の常時満水位や事前放流のやり方の再検討などについて、箱根町からも、要望があったと承知を致しております。そして、芦ノ湖の水を安全に放流するためには、早川の洪水対策も同時に進める必要があります。東日本台風で被災した施設の復旧を迅速に進めて頂いたことには大変感謝しておりますが、今後は、堆積した土石の撤去を含め、早川の洪水対策にも積極的に取り組んでいただきたいと強く思います。

芦ノ湖の歴史的経緯を考慮すると、洪水対策の強化にあたっては、水利組合や湖面利用者等の関係者に対して、丁寧な対応が必要であることは十分理解しますが、それにより本県の洪水対策が遅れてしまうことは許されません。県は積極的に関係者と協議を行い、急激に降雨量が増加してしまう気象現象に対し、芦ノ湖と早川の洪水対策をさらに進めていく必要があります。

そこで、知事にお伺いいたします。芦ノ湖と早川における洪水対策について今後、どのように取り組んでいくのか、知事の見解をお伺いいたします。

知事からは「高橋のぶゆき 県議会活動報告 Vol.11」に掲載した通りの答弁がありました。

(編集 4月会報担当: 櫻井武志/クラブ会報委員会)



会員誕生日

佐東文介君
4/2



結婚記念日

佐東文介君
4/7



ご主人誕生日

小倉高代君
(智樹様 4/3)



地区大会・ご長寿表彰

西山敦君
S11/1/27生まれ